

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- |   |      |                   |        |                 |
|---|------|-------------------|--------|-----------------|
| 1 | 会議名  | 可児高等学校運営協議会 (第1回) |        |                 |
| 2 | 開催日時 | 令和3年8月30日         |        |                 |
| 3 | 開催形態 | 書面開催              |        |                 |
| 4 | 参加者  | 会長                | 山口 智司  | 可児高校PTA会長       |
|   |      | 副会長               | 三品 芳則  | 可児市立蘇南中学校長      |
|   |      | 委員                | 松井 慶子  | 元可児高校PTA役員      |
|   |      |                   | 市原 崇光  | 可児市商工会議所副会頭     |
|   |      |                   | 千束 綾子  | 可児市役所産業振興課主任    |
|   |      |                   | 菰田 さよ  | 可児市国際交流協会       |
|   |      |                   | 杉浦 浩子  | 岐阜医療科学大学看護学部学科長 |
|   |      |                   | 水野 秀光  | 坂戸地区自治会長        |
|   | 学校側  | 總山 俊行             | 校長     |                 |
|   |      | 林 辰郎              | 教頭     |                 |
|   |      | 大野 広喜             | 事務長    |                 |
|   |      | 田内 俊文             | 教務主任   |                 |
|   |      | 小栗 和成             | 生徒指導部長 |                 |
|   |      | 内藤 崇              | 進路指導部長 |                 |

### 5 会議の概要（協議事項）

#### (1) 本校の「目指すべき学校像」について

<学校からの説明>

- ・本校の現状と課題について
- ・今後の学校の方向性と方針について

意見1：学校の課題の中にある「学校における生徒の主体的活動の比重がやや少ない」点は同感である。この「主体性」こそが、高校卒業後も将来にわたって必要で重要と考える。また、高校卒業後に必要となる、高校時代に培っておくべき力が、「コミュニケーション能力、他者と協働し、課題を解決する力」だと考える。「主体性」と「コミュニケーション能力」を備えた生徒に育てることを目標とし、これらを養う学校活動を望む。

意見2：単なる「進学校」では魅力を感じない。高校は大学合格が目標となりがちだが、大学で何を学びたいのか、大学卒業後に何をしたいのかを共に考え、自分の進路を開拓していける力を在学中に身に付けられる学校となしてほしい。

意見3：スクール・ポリシーの作成では、PDCAサイクルで評価・改善し、ブラッシュアップしていただきたい。教育目標も同じだが、生徒自身が十分に理解することがとても大切である。

意見4：将来、地元に住みたい、就職したい、家庭を持ちたい、そして地域の活性化に努めたい。そんな郷土愛を持てる生徒像を望む。

意見5：希望する進路を達成するために、グローバルな視点をもつこと、自分の個性や特性を理解し、その上で他者との関わりを大切にしていくことのできる生徒を育ててほしい。

## (2) 学校と地域の連携について

意見1：地域では、少子高齢化といった全国共通のものから、外国人市民との協働や市の魅力向上といった地域特有のものまで、多くの課題を抱えている。生徒たちがこれらの課題に向き合うことは、進路を深掘りして考えることに繋がる。様々な分野で地域の課題に取り組む人物や団体等との交流を通じ、将来の選択肢を提示することで、充実した進路学習となると思う。また、その中には「起業」や「地元に戻り働き、暮らす」という選択肢も含まれるとよい。

意見2：コロナ禍で難しいが、地元企業への体験学習、自治体イベントや可児商工会議所夏祭り、産業フェアへの参加、フェスティバルの企画運営などのボランティア、成人向けの日本語教室で初級日本語を考えるなど、地元の人たちと一緒に活動でき、地元を知ってもらおう取組ができるとよい。

意見3：地域と連携して、本校の先生方の一生懸命な姿、丁寧で生徒に寄り添う指導をアピールしていくような広報活動ができないか。

意見4：外国籍が多いという地域の特性をどうにか生かせないだろうか。

意見5：地域における各分野の達人や、社会で活躍している卒業生などを外部講師として活用するとよい。そのための情報収集が必要である。

## 6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・本校の現状と課題を受けて、目指すべき学校像として、学力だけでなく主体的に活動できる力やコミュニケーション能力、進路を開拓していく力などを育成する学校となることが求められている。
- ・生徒のキャリア教育の面でも、地域の活性化の面でも地元地域と連携を深め、地域の人材を活用することは重要であり、どういう形で連携していくか検討していく必要がある。